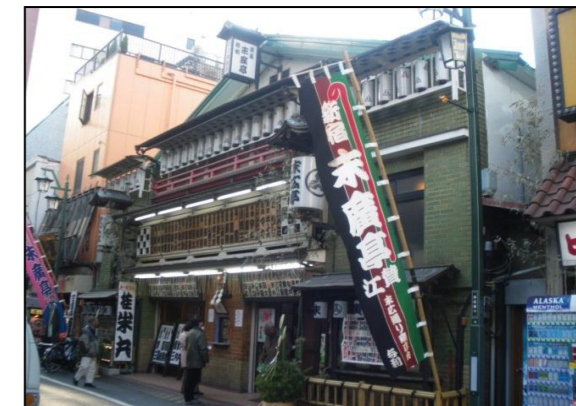


地域文化財認定物件一覧

No.	物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明
1	末広亭	都市・産業 文化・芸術	新宿区 新宿三丁目6番12号	新宿末広亭	昭和21年～ (1946年～)	昭和21年3月、建築業を営んでいた北村銀太郎が、戦災で焼失した元の建物・地所を買い取って開業した。都内に4軒残る落語定席の一つであり、現在も落語協会と落語芸術協会が10日ずつ交代で興行を続けている。客席は1階と2階があり、計313席を有する。寄席のビル化が進んでいるなかで、東京の定席としては唯一の木造建築であり、江戸時代の寄席の風情をとどめる建造物である。



物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明
歌舞伎町建設記念碑	都市・産業 歴史	新宿区 歌舞伎町一丁目 20番地と21番地の間	新宿区	昭和32年 (1957年)	昭和32年1月、新宿第一復興土地画整理組合により建立された。昭和20年4月13日の空襲で焼け野原となった新宿駅周辺で、当時の角筈一丁目が新たに歌舞伎町として再開された復興事業の経緯と、それに尽力した組合役員の名前が記されている。戦後焼け野原から国内有数の繁華街を生み出した、地元住民の声を伝えるモニュメントである。総高228cm、周囲204cm。



No.	物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明
3	六桜社跡	都市・産業 歴史	新宿区 西新宿二丁目11番地 新宿中央公園内	新宿区	明治35年 (1902年)	国産初のカラーフィルムを作った小西六写真工業(現コニカミノルタ)が、明治35年から昭和38年まで操業した工場の跡地である。小西六写真工業は、明治35年5月に淀橋町に移転し、「六桜社」と改称した。玉川上水助水堀から良質な水を得られる当地に移転したのは、写真感光材料の国産化を目指してのことであった。



No.	物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明
4	佐々木活字店	都市・産業	新宿区 榎町75番地	有限会社 佐々木活字店	大正6年～ (1917年～)	日清印刷(大日本印刷の前身)鑄造部の責任者をしていた佐々木巳之八氏が、大正6年に独立して設立した佐々木活版製造所を前身とする。現在、活版印刷は減少し、活字店は都内でも5軒程度となった。また、印刷所が文撰・植字等の工程を行わなくなったため、当店では鑄造から植字、印刷に至る活版印刷の全工程を行うようになった。日本の出版文化史上、貴重な技術を保持している。



No.	物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明
5	近衛篤磨公記念碑	歴史	新宿区 下落合二丁目19番 23号付近	財団法人霞山会 (港区赤坂二丁目 17番47号)	大正13年 (1924年)	五撰家筆頭近衛家当主近衛篤磨を顕彰する記念碑で、大正13年に建立された。明治37年の篤磨死後、大正11年よりその邸宅が「近衛町」と銘打ち分譲されていることから、近衛家の足跡を記すために建立されたと考えられる。現在でも建物名等に「近衛町」の名称が残るなど、土地の記憶・まちの記憶として継承されている。総高240.5×幅75.5×奥行31.3cm。



地域文化財認定物件一覧

No.	物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明
6	花園神社の二宮尊徳像	歴史	新宿区 新宿五丁目17番3号 花園神社境内	宗教法人 花園神社	昭和8年以前	四谷第五小学校建設中の昭和8年(1933)、長崎武文(昭和8年卒業)の父・佐次郎が千葉から荷車で運んできたものという。同校が廃校になるに伴い現在地に移設された。撤去が相次ぐ中で保存された、戦前の修身教育の名残をとどめる資料である。総高193.5×幅44×奥行60.5cm。



No.	物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明
7	長谷川平蔵埋葬の地	歴史	新宿区 須賀町9番3号 戒行寺境内	宗教法人戒行寺	寛政7年 (1795年)	池波正太郎原作『鬼平犯科帳』の主人公「鬼平」のモデルとなっている旗本長谷川平蔵の菩提所であり、かつては墓所が営まれた。平蔵は火付盗賊改役等を務め、寛政改革では石川島人足寄場を献策するなど、江戸の治安維持等に功績があった。長谷川家はその後子孫が絶え、墓所は戒行寺墓地が明治末に現杉並区に移転した際に整理合葬された。現在境内には平成6年7月に建立された供養碑がある。



No.	物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明
8	神楽坂の東八拳	生活	新宿区矢来町	東水舎東八	江戸時代～	「東水舎」社中が伝えるお座敷遊び「東八拳」。東八拳は、腕を使って狐・獺師・庄屋を表し、この三すくみの勝敗を競う遊びで、文政年間の江戸風俗に由来するとされ、近代以降はお座敷遊びとして受け継がれた。かつては神楽坂のお座敷でも興じられていたが、現在はイベントなどの際に公開されている。



No.	物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明
9	神楽坂をどり	生活	新宿区 神楽坂3丁目6番地	東京神楽坂組合	昭和38年～ (1963年～)	神楽坂芸妓の修練する芸事を一般に披露する場として、東京神楽坂組合が開催するもので、平成23年で29回を数える。専門家による都市部の無形文化として芸術的側面を持つと同時に、花柳界の歴史も反映させており、神楽坂の歴史と文化を担う催しである。

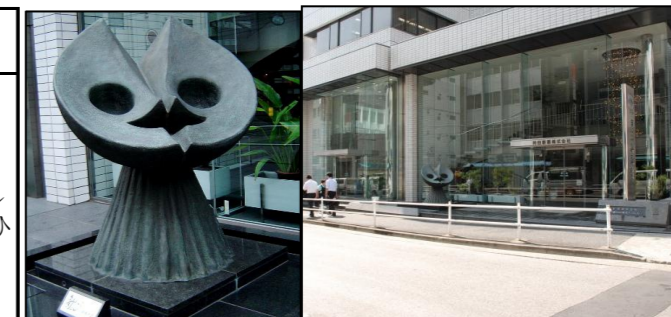


No.	物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明
10	旧近衛邸のケヤキ	自然	新宿区 下落合二丁目17・18 番間の区道上	新宿区	明治時代	樹齢100年を超える樺の大木で、区道の中央に残っている。五摂家筆頭の近衛家の邸宅の車廻しにあったと伝えられ、当時の当主篤麿が好んだという。大正11年の近衛邸分譲後も地域住民の要望により残された。現在は区道の真ん中に残るかたちとなっており、木を迂回するように二股に分かれる道路は、一風変わった景観を形成している。明治から大正にかけて、華族屋敷の分譲により宅地化が進んだ下落合地区の町の形成を物語る樹木である。高さ1100×周囲283cm。



地域文化財認定物件一覧

No.	物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明
11	オブジェ 「歓び(PLAISIR)」	文化・芸術	四谷一丁目7番 持田製薬株式会社 本社玄関前	持田製薬株式会社	昭和53年 (1978)	持田製薬創業65周年を記念して、当時の社長と懇意であった岡本太郎が制作したブロンズ製のオブジェ。岡本作品としては、太陽の塔以降の顔をモチーフとした一連の作品のひとつであり、パブリックアートとして地域で親しまれている。



No.	物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明
12	源兵衛子育地蔵尊の 石造物群	歴史	新宿区 西早稲田二丁目18 番26号隣	個人4名	江戸時代 ～大正時代	旧源兵衛村の源兵衛子育地蔵尊に安置されている地蔵尊と石造物群である。ここには、江戸中期の製作と推定される地蔵尊のほか、寛文13年(1673)建立の庚申塔や、明治33年(1900)及び大正11年(1922)建立の馬頭観音、年代不明の道標が集められている。戦後に境内を整備し、現在は西早稲田商店会が管理しているが、地蔵尊は地域住民の日常的な信仰の対象として、地域社会の紐帯ともなっている。



No.	物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明
13	彰忠碑	平和	新宿区 西早稲田二丁目18 番26号隣	個人5名	大正3年 (1914年)	旧源兵衛村の源兵衛子育地蔵堂の境内奥に建立されている。伊予青石(緑泥片岩)の一枚岩を使用している。この碑は、大正3年、戸塚町兵員慰労義友会が建立したもので、日清・日露戦争に戸塚町から出征した人々の名前を伝えている。総高279cm、幅242cm、奥行23cm。



No.	物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明
14	太平洋戦争本土初空襲 の地跡	平和	新宿区 早稲田鶴巻町519番 地	医療法人社団早 正会 岡崎医院	昭和17年 (1942年)	岡崎医院付近は、昭和17年4月18日にあった太平洋戦争本土初空襲により被災した場所である。航空母艦ホーネットから飛来したジェームズ・ドーリットル中佐率いる中型爆撃機(B25爆撃機)部隊により、早稲田鶴巻町・馬場下町付近に焼夷弾が投下され被害を受けたが、その時延焼したのが岡崎医院(当時は岡崎病院)であった。



No.	物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明
15	名曲喫茶らんぷる	都市・産業 生活	新宿区 新宿三丁目31番3号	建成産業株式会 社	昭和30年 (1955年)	クラシックレコードを聴かせる名曲喫茶として、昭和25年に開店した。元は現在の中央通りで営業していたが、昭和30年の区画整理によって通りの向かい側の現在地に移転した。昭和49年1月には現在の建物に改築しているが、内装には昭和30年当時の椅子やテーブルが使用されている。高度成長期の新宿の風俗や文化を今に伝える店舗である。



地域文化財認定物件一覧

No.	物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明
16	西落合耕地整理記念碑	都市・産業	西落合二丁目 17番17号 御霊神社境内	宗教法人 御霊神社	昭和11年 (1936年)	西落合の耕地整理記念碑は、大正14年(1925)に設立された「葛谷耕地整理組合」が昭和11年(1936)に解散した際、建立した記念碑である。60名の組合員の名が刻まれており、境内の富士塚の跡に建てられている。題字は第30代東京府知事横山助成(1884～1963)の揮毫になる。高さは300cm。関東大震災以後の落合地区の町並み整理の起源を示すものである。



物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明	
17	旧淀橋浄水場蝶型弁	都市・産業	西新宿二丁目 6番1号 新宿住友ビル	住友不動産 株式会社	昭和12年 (1937年)	昭和40年(1965)に廃止された淀橋浄水場で使用された内径100cmの鉄管に蝶型の止水弁がついた配水バルブである。中央部には東京都水道局のマークと「昭和十二年」という文字が刻まれている。昭和初期、関東大震災後の施設改良が進められ、昭和12年7月には震災で決壊した玉川新水路〔和田堀(杉並区)～淀橋〕に替わる導水暗渠(内径210cm)を甲州街道下に通水した。この弁は改良工事の一環として設置されたものと推定される。傍らの壁面には「東京水道発祥の地」という銘板が掲げられている。



No.	物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明
18	旧淀橋浄水場六角堂	都市・産業	西新宿二丁目11番	新宿区	明治39～ 昭和2年頃 (1906～27年頃)	旧淀橋浄水場の洋風東屋で、新宿中央公園の富士見台と呼ばれる築山上に所在する。富士見台は4号沈澄池増設工事に際して出た残土を利用して造られた。東屋の建築時期は、富士見台が造られた明治39年(1906)から写真に残る昭和2年(1927)の間と考えられる。浄水場操業当時の施設等の遺構はほぼすべて消滅しており、この六角堂と富士見台は唯一の現存する遺構である。



No.	物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明
19	巴講睦の獅子図屏風	文化・芸術	北新宿二丁目1番	巴講睦	大正7年 (1918年)	大正7年(1918)7月、鎧神社の氏子淀橋町寿賀多会の求めにより、柏木字蜀江山に住んでいた日本画家山内多門(1878～1932)が、御神酒所に供えるために描いた雌雄一對の唐獅子図。多門は、宮崎県都城市出身で川合玉堂・橋本雅邦に学び、明治から昭和初期にかけて活躍した日本画家。大正2年淀橋町柏木896番地に移り、亡くなるまでこの地で過ごした。自宅周辺は「蜀江山」と呼ばれたことから、画室を「蜀江山房」と名付け、画号とした。



地域文化財認定物件一覧

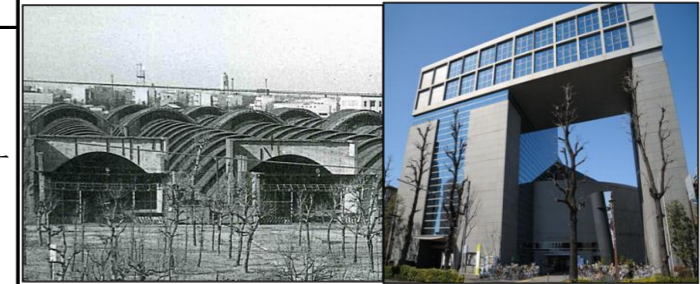
No.	物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明
20	服部良一旧居跡	文化・芸術 歴史	若松町24番1号	株式会社 山口銀行	昭和27～34年 (1952～59年)	作曲家・編曲家として和製ポップスの分野を確立し、昭和の歌謡史に大きな足跡を残した服部良一(1907～93)が、昭和27年から34年まで7年間暮らした場所である。大阪に生まれた服部は、オーケストラで管楽器を演奏する傍らウクライナ人指揮者メッテルに作曲を学び、昭和11年(1936)コロムビアの専属作曲家となって、ジャズの手法を取り入れた数多くの曲を残した。代表作は『別れのブルース』『東京ブギウギ』『青い山脈』等多数。『青い山脈』ヒット直後、木造2階建て和洋折衷様式のこの邸宅を購入して居住し、作曲活動を行った。



No.	物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明
21	天祖神社の神門	歴史	原町一丁目42番	原町一丁目町会	弘化2年 (1845年)	天祖神社は、江戸時代には神明宮と称し、慶長19年(1614)に名主長兵衛により当地に祀られたと伝わる。構造形式は薬医門、潜戸・袖壁を付す。境内の石井戸の刻銘によると、現在の門は、弘化2年(1845)、町内氏子中・家主中が施主となり、大工立川清三郎によって建立されたものである。小振りながら彫物の装飾を多用し、全体的に技巧的な作りになっている。度重なる改修・改変も認められるが、当初の材を良く残した江戸時代の遺構である。



No.	物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明
22	戸山射撃場跡	平和	大久保三丁目 1番2号 新宿コズミック スポーツセンター	新宿区	明治7年 (1874年)	新宿コズミックスポーツセンター一帯は、明治7年(1874)陸軍用地となり、射撃の練習に用いられた。流れ弾により負傷者が出たため、昭和3年(1928)に長さ300mの鉄筋コンクリートのトンネル式の射撃場が7棟造られた。戦後は占領軍が接収・使用し、昭和33年に返還された。その後順次解体され、早稲田大学理工学部の建設工事に伴い、昭和40年に最後のトンネル式射撃場が解体された。



No.	物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明
23	喜久井町 戦災者供養観音像	平和	喜久井町17番地	早稲田大学 理工学研究所	昭和20年 (1945年)	昭和20年(1945)5月25日、米空軍による空襲があり、山手地区が焦土と化した。早稲田大学理工学研究所も被害にあい、同敷地地下に作られた防空壕には、学生数名と近隣の人々あわせて300余名が避難したが、火焰と煙に包まれて尊い命が失われた。昭和30年5月罹災十周年を迎え、これらの人々の霊を慰め、永遠の平和を祈願する本観音像を建立した。観音像の制作は二紀会の永野隆業による。碑文は昭和58年3月に早稲田大学理工学研究所が設置した。



地域文化財認定物件一覧

No.	物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明
24	白糸塚	文化・芸術 歴史	新宿二丁目 15番18号 成覚寺	宗教法人 成覚寺	嘉永5年 (1852年)	嘉永5年(1852)二代目坂東志うかが、「鈴木主水と内藤新宿橋本屋の遊女白糸との情死」話に取材した芝居が大当たりした御礼として成覚寺に参詣した際に、白糸の供養として自作の句を刻銘した慰霊碑である。 鈴木主水と白糸の心中事件が史実かは不明であるが、当時の世相を反映し、また新宿を舞台にした狂言作品として流行した「鈴木主水物」を顕在化した石碑として、文化的な意義をもつ。高さ40cm×幅67cm×厚さ25cm。



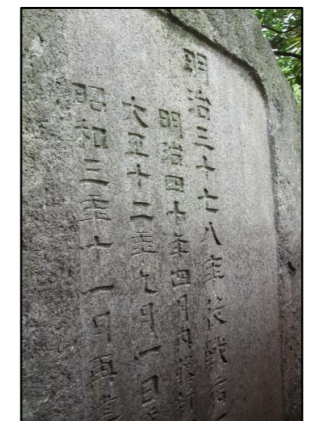
物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明
獅子吼会の山門	歴史	中井二丁目 14番1号 獅子吼会	宗教法人 獅子吼会	昭和4～10年 (1929～1935年)	昭和4～6年(1929～31)の獅子吼会大本堂の建設に伴い建立された。『会祖日現聖人伝記』によると、関東・東北各地から大工や石工が集められ、大本堂の建設に高賃金で携わったとされる。他とは異なる独特の手法・意匠が各所にみられ、豊かな彫刻的表現を実現している。平成4年(1992)3月に敷地内で移築を行い、現在地に移された。その際改修が行われているが、古写真と比較して外観に大差なく、当初の姿をよく残している。江戸時代以前から続く伝統的な大工による表現・技術の集大成ともいえる作品であり、昭和初期の新しい感覚を取り入れた近代の伝統的様式建築として高く評価できる。



No.	物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明
26	田島森碑	歴史	早稲田鶴巻町 568番地 元赤城神社	元赤城神社 鶴巻東町会	昭和6年 (1931年)	赤城神社の由来と「田島の森」と呼ばれた当地の歴史を伝える記念碑である。当地は、牛込早稲田村の「田島の森」と呼ばれる沼地であったところへ、正安2年(1300)上野国赤城山の麓から牛込に移り住んだ大胡氏(後に牛込氏に改姓)が故郷の赤城明神を祀ったと伝えられる。碑文には、赤城神社が寛正元年(1460)太田道灌によって牛込に移され、弘治元年(1555)に現在地へ遷座した後も、当地には元赤城神社として社殿がのこされ、崇敬者の手によって維持されてきたことが刻まれている。牛込氏や赤城神社など新宿の中世史を示す記念碑である。高さ116cm×幅72.5cm×厚さ11.5cm。(※実際に大胡氏が牛込に移り住んだのは15世紀末頃と推定されている。)



No.	物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明
27	忠魂碑	平和	新宿五丁目 17番3号 花園神社	宗教法人 花園神社	昭和3年 (1928年)	明治40年(1907)に日露戦争の戦死者を慰霊して内藤新宿奨兵会が忠魂碑を建立したが、関東大震災により倒壊したため、昭和3年(1928)に再建した。碑の揮毫は東郷平八郎による。内藤新宿奨兵会の詳細は不明だが、震災後再建されていることから、活動は昭和戦前期まで継続していたことがうかがわれる。内藤新宿を一単位とする奨兵会の存在を示し、地域から出征していく兵士や家族の心情、紐帯等を物語る。昭和戦前期における戦争と地域・市民との関わりを示す文化資源である。高さ289.8cm×幅183cm×厚さ20cm。



地域文化財認定物件一覧

No.	物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明
28	祭馬碑	平和	市谷左内町11番地 長泰寺	宗教法人 長泰寺	大正11年 (1922年)	陸軍士官学校馬術教官部の教官と馬丁らが、飼育していた軍馬の供養のために大正11年(1922)に建立したもので、土中には馬のたてがみを埋葬したと伝えられる。 長泰寺に近い防衛省は、江戸時代は尾張徳川家上屋敷であり、明治以降は陸軍士官学校、陸軍省、参謀本部、大本営陸軍部等の陸軍施設が継続して置かれた場所であった。寺の門前の左内坂では、士官学校生が馬で急坂を駆け上がる訓練をしたと伝えられる。戦前、陸軍施設が集中していた新宿の歴史を示す供養碑である。高さ210cm×幅53cm×厚さ10.3cm。



No.	物件名称	分野	所在地	所有者等	年代	物件説明
29	渡辺玉花旧居	文化・芸術 都市・産業	中落合三丁目 18番8号	渡邊宏次	大正14年頃 (1925)	日本画家渡辺玉花(1901～1996)の旧居。玉花は川合玉堂門下で、山内多門から日本画を、吉村忠夫から大和絵を学び、源氏物語を題材にした一連の作品を残した。代表作は「源氏物語五十四帖」。この家は、箱根土地会社が1922年から1925年にかけて分譲した目白文化村(第二文化村)の分譲の際に土地を購入し、建設されたものと考えられる。はじめは平屋建てであったが、昭和10年(1935)頃二階を増築しアトリエに使用していた。大幅な改修はあるが、平面構成や一部の構造部材は建築当初のものである。画家渡辺玉花のアトリエとして、また大正期、落合地区のみならず東京郊外の宅地開発の先駆けの一つであった目白文化村の歴史を示す住宅として希少な遺構である。

